

2020 年度 家庭の省エネアンケート 回答結果

2020 年度は、新型コロナウイルス感染防止のために、多くの環境展などが中止となった。そのため、茨城県センターの母体となる茨城県環境管理協会の会員企業等に家庭の省エネアンケートへの回答をお願いした。回収数は 932 件であった。県内の回答結果を纏めたものを以下に示す。

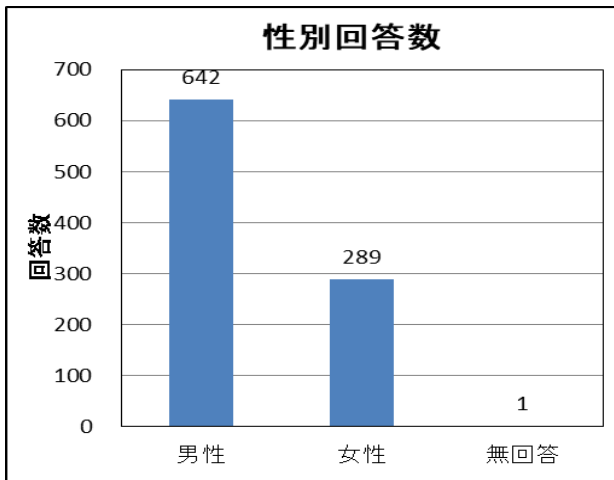


図-1 性別回答数

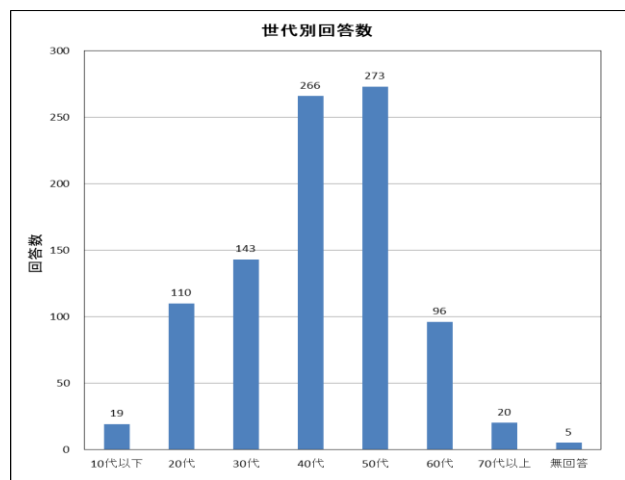


図-2 世代別回答数

図-1 に示した性別回答数では、男性が全体の約 70%(642 件)であり、女性が約 30%(289 件)と男性からの回答が多かった。

図-2 に示した世代別回答数では、40 代、50 代の回答数が 29%(266 件、273 件)と最も多く、次に 30 代の回答数が 15%(143 件)という結果となった。

表-1 省エネ対策取組内容

No.	機器	内容
1	冷蔵庫	設定温度を強から中にする
2		物を詰め込みすぎないようにする
3	照明器具	白熱電球を LED 電球に取り替える
4	テレビ	画面は明るすぎないように調節する
5	エアコン	夏の冷房時の室温は 28℃、冬の暖房時の室温は 20℃を目安にする。
6		フィルターを月に 1 回、2 回清掃する
7	風呂給湯器	間隔をあけずに入浴
8		シャワー（温水）は流したままにしない
9	電気ポット	長時間使用しない時は電気プラグを抜く
10	電気カーペット	設定温度は低めにする
11	石油ファンヒーター	室温は 20℃を目安にする
12		必要な時だけつける
13	ガスファンヒーター	室温は 20℃を目安にする
14		必要な時だけつける
15	自動車	発進時のアクセルはゆっくり踏み込む
16		走行中はできるだけ速度を一定に保つ
17		早めのアクセルオフをすること

表-1 のそれぞれの項目について、

- A.既に実施している
 - B.これから、実施したいと思う
 - C.これからも、実施するのは難しい
- の3つから回答をいただいた。

表-2 省エネ効果算出根拠

	CO2排出係数	単位	原油換算係数	単位	金額換算係数	単位
電気 ※1	0.587	kg/kWh	0.252	L/kWh	27	円/kWh
ガス ※1	2.277	kg/m ³	1.16	L/m ³	180	円/m ³
灯油 ※1	2.488	kg/L	0.947	L/L	64	円/L
ガソリン ※2	2.322	kg/L	0.893	L/L	120	円/L
水道 ※1	0		0		228	円/m ³

係数の引用元(平成 30 年 7 月現在)

※1 省エネ性能カタログ 2017 年冬版(経済産業省 資源エネルギー庁 発行:2017 年 12 月)

※2 家庭の省エネ徹底ガイド春夏秋冬(経済産業省 資源エネルギー庁 発行:2017 年 8 月)

上記の表-2 の係数を使い CO₂ の削減効果を計算した。

表-3 普及啓発による削減効果

	削減効果		
	削減量(CO2-kg)	削減経費(円)	原油換算量(L)
普及啓発前	535,324.2	28591040	224,088.87
普及啓発後	186,513.4	9924800	80,426.64
合計	721,837.6	38515840	304,515.51

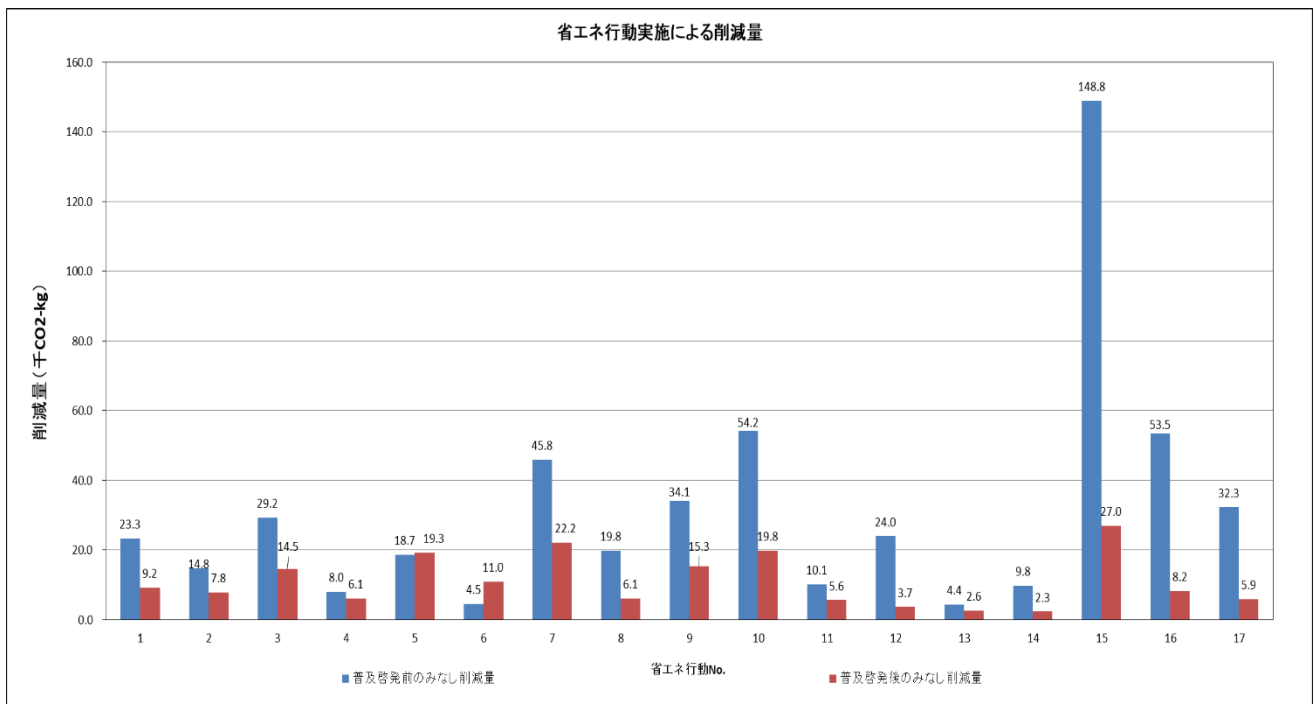


図-3 省エネ行動実施による削減量

表-3 及び図-3 に、今年度の家庭の省エネアンケートでの普及啓発を行った、温室効果ガスの削減量を示した。

CO₂ の削減効果を見ると、普及啓発前の CO₂ 削減量は 535,324.2 CO₂-kg、普及啓発後の CO₂ 削減量は 186,513.4 CO₂-kg であった。合計の CO₂ 削減量は 721,837.6 CO₂-kg になり、一人当たりの CO₂ 削減量は 774.50 CO₂-kg となった。

CO₂ の削減効果を削減経費で見ると、普及啓発前の削減経費は 28,591,040 円であり、普及啓発後の削減経費は 9,924,800 円となった。合計すると 38,515,840 円の経費を削減することが出来た見込みである。

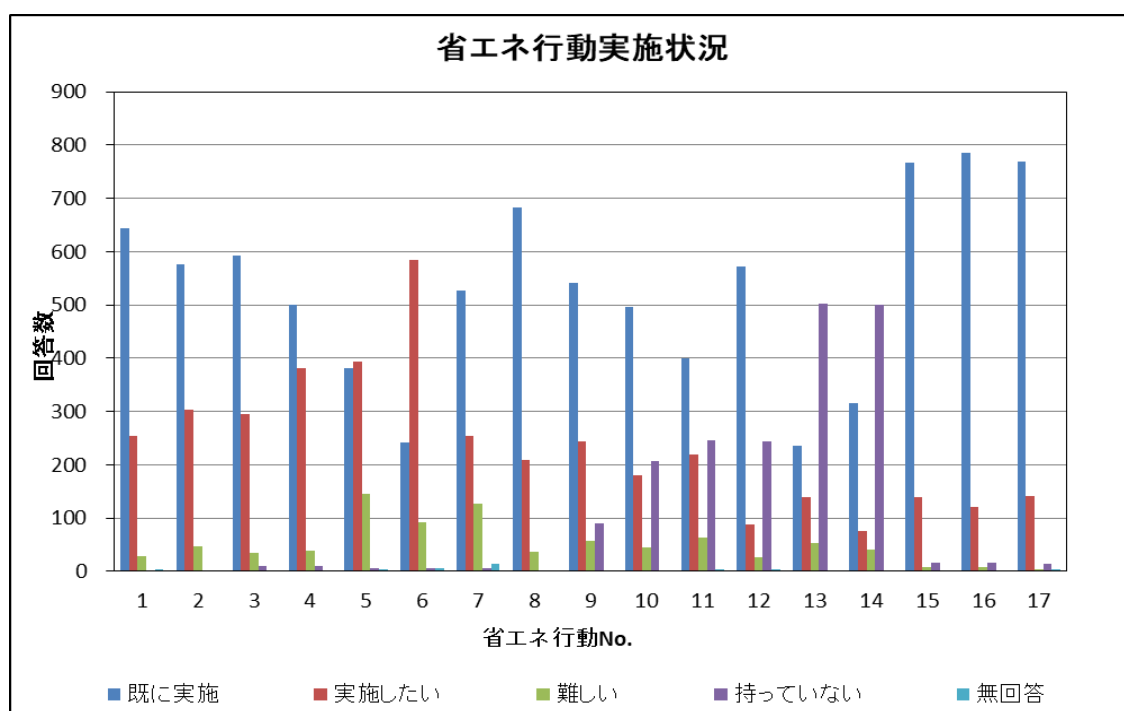


図-4 省エネ行動実施状況

図-4 に示した省エネ行動の実施状況では、多くの項目で「既の実施」「実施したい」の回答が多かった。機具別に見ていくと、1,2 の冷蔵庫、3 の照明器具、4 のテレビ、7,8 の風呂給湯器、9 の電気ポット、10 の電気カーペット、12 の石油ファンヒーター、15,16,17 の自動車については、「既の実施」の回答が多く、これらの機具は既に省エネに対する意識が高いことが伺える。エアコンに対する設問 6 の「フィルターを月に 1、2 回掃除する」は「実施したい」との回答が多く、この項目については今後の取組が増え、CO₂ 排出量の削減に期待のできる結果となった。

また、設問 13、14 の対象であるガスファンヒーターについては、「持っていない」の回答が設問ごとの回答率の 50%を超えており、ガスファンヒーターを持っていない家庭が多いことが分かった。